

かぐらいちょうめしやうてんがい

神楽1丁目商店街

(敦賀市神楽町1丁目商店街振興組合)

福井県敦賀市神楽町

危機を好機に、おかみさんの底力 次なるステージへの挑戦



取組の背景

コロナ禍をきっかけに 自分達の思いを再確認

新型コロナウイルス感染症の影響で2020年3月～5月に小売業、飲食・宿泊業の店舗では大打撃を受けた。そのような状況で敦賀商工会議所ではいち早く、5月25日の緊急事態宣言解除後わずか10日程で「消費回復キャンペーン(商店街スタンプラリー事業)」を開催した。当商店街も含め中心市街地の6商店街94店舗が手を挙げ、自粛ムードの高まりにも関わらず40～50代の女性を中心に100名強がスタンプラリーに参加した。

上記事業終了後に同商店街のおかみさんの会である『神楽べっぴん会』の中心メンバーが集まり、振り返りを行った。そこでは「自粛のなか、来店してくれるお客様のありがたさを感じた」や「これまで先送りにしてきたことにチャレンジしてみたい」、「自店の強みや歴史や将来といったことを考えてみたい」といった各々の気持ちを

共有できた。そういった気持ちに基づき、今後の取組について目の前のことから中長期的なことまでさまざまな施策を検討していくこととなった。

売上対策として「魅力のある商品開発」と「環境変化に対応した店づくり」という二つの方針を定め、そこから具体的な施策に落とし込んでいくことにした。また2023年に予定されている北陸新幹線敦賀開業に合わせたブランディングを進めていくこととなった。



『神楽べっぴん会』メンバー

取組の内容

「今すぐ」と「これから」 神楽ブランド確立

おかみさん達は「今すぐに行えること」として、県の補助金を活用し、「巣ごもり需要」に対応した売上対策とレジ袋有料化対策を兼ねて「神楽バッグ(自店商品を詰め合わせたエコバッグ)」を企画、6月下旬から販売を開始した。「店に滞留せずに速やかに購入できること」と「店の特徴や強みといった付加価値を提供できること」を共通コンセプトに、各店舗がアイテムをセレクトした。主なターゲットはなじみ客とした。さらに、自粛が続くなかで会議所等の支援でSNS活用や、ネット販売などデジタル化への着手も進めた。

また同時に、3年後に迫りつつある北陸新幹線敦賀開業に合わせ、商店街の認知度をあげるため(株)全国商店街支援センターの研修を活用し、専門家のリードでブランディングについて検討した。

その一つのアプローチとして『土産品開発』をテーマとし、地域資源の活用および、価格や便益でなく、情緒的な価値を訴えていくことを方針とした。そこで最も知名度の高い地域資源である「氣比神宮」の『神宮皇后』の神話を絡めたストーリーと、「品のある頑張る女性を応援する」、「地域の素材を活用する」、「豊かな暮らしを提案する」という思いを重ねていった。そこから皇后神宮の「女桃太郎伝説」をイメージ化し、ネーミングからパッケージデザインま



神楽バッグとコラボセット

で基礎的なブランドコンセプト【LADYMOMO(仮称)】を完成させた。各店舗においては、このブランドコンセプトや商品コンセプトに沿った新たな商品開発や商品選定を

行い、若狭湾の塩を活用した羊羹やジュレ、上品な女性のイメージに相応しいガーゼハンカチなどを考案した。

取組の成果

発信によって応援を感じる 結果で努力を実感する

「神楽バッグ」についてはデザイン性や各店舗の商品クオリティに加え、地元客からの「応援消費」を要因として約2ヵ月間で完売、全体で100万円以上の売上を達成。企画段階からのSNS活用は、新規顧客の獲得や既

存商品のリピート購入につながった。

また、「オリジナル土産品開発」を通じて開発された各店の新商品やコラボ商品の販売、オンライン販売も売上に効果をもたらし、取組後の半年を経過した時点で半数以上の事業者が前年度を上回るに至った。なお、土産商品については引き続き磨きあげていく。

実施体制

本事業の中心的な役割を担ったのは、同商店街のおかみさんの会である「神楽べっぴん会」である。会は2017年1月に発足し、「気比さんのお膝元である神楽をもっと楽しいものにしたい」を目的としている。現在、メンバーは13人で「朔日市」をはじめ、「け

いさんアートマルシェ」、「氣比神宮の杜フェスティバル」、「まちゼミ」などさまざま取組んでいる。これらの活発な動きにより、県や市からも多くの事業への参加要請の声が上がっている。県知事との対談やラジオ番組の出演、雑誌の取材などメディア活動も徐々に広がり、結果として広報活動にもつながっている。

キーパーソンからのコメント

仲間がいることで背中を押してもらえ、集まりがあるからこそアクションできる

これまでのべっぴん会は活動を行う仲良しの集まりでしたが、今回のコロナ禍を経て一段上の強い関係性に成長したと感じます。商品開発や売り方など普段口にしないことも真剣に話し合えるようになりました。それは、メンバーがいることで背中を押してもらえ、集まりがあるからこそアクションできていると思います。

商店街ブランディングとあわせて各

店でも取組みがスタートし、コラボセットや新商品はお客様に好評を得て、自信を持ち始めています。また、地域の若い人を巻き込んでの活動も始まりました。コロナ禍で地域との結びつきが再確認され、老舗商店が多いこの商店街をこれからも県、市、会議所、まちづくり会社等の支援を頂きながら、盛り上げて神楽ファンを増やしていきたいです。



おかみさんの会である「神楽べっぴん会」 中道尚子

商店街の概要

北陸一宮「氣比神宮」の門前町、港湾都市として昔から栄えており、組合は55年の歴史がある。だが、近隣にロードサイド型商業施設の立地が進んだことから1991年をピークに売上が減少し、廃業による空店舗化や住宅化が進んでいる。現在、景観形成啓発活動事業や氣比神宮のライトアップ事業による魅力的な都市景観の創出、道路改良事業や街あかり創出事業による歩きやすい環境整備を実施するとともに、周辺商店街の活性化に向けた取組と連携しながら、「氣比神宮を中心としたまちなか回遊エリア」の形成を目指している。

所在地 福井県敦賀市神楽町
人口 約6.5万人(福井県敦賀市)
電話 0770-22-1334
FAX 0770-22-1387

URL <https://kagura-street.info/>
会員数 64名
店舗数 64店舗(小売業24店、飲食業4店、サービス業9店、不動産業1店、医療サービス業1店、その他25店)

商店街の類型 単独型
主な客層 高齢者、主婦/
60歳代、50歳代